

中学校第1学年国語科学習指導案

- 1 単元名 クジラ新聞を作ろう
教材名 中島 将行 「クジラたちの声」 (『国語1』 光村図書)

2 単元観

本単元は、教材文「クジラたちの声」を一枚の新聞に再構成することにより、説明的文章を目的に
応じて的確に「読むこと」の力を付けるために設定した。新聞を作るという目的や、紙面のスペース
という条件に応じて教材文を要約させることで、本文に何度も立ち返らせ、理解を確かなものにして
いきたいと考える。

(1) 生徒観

学習に関する意識調査によると、本学級の生徒で、苦手な教科は国語と答えた生徒は36名中4名
のみである。国語の授業に意欲的に取り組み、積極的に発表する生徒は多い。しかし、自分の意見
を書いたり発表したりする際は恣意的な意見が目立つ。相手の意見をしっかり聞いたり、本文をじ
っくり検討したりすることができていないのが現状である。読書量は比較的多いが、挿絵が多い本
や、物語を好む傾向がある。長文、特に説明的文章に対しては苦手意識が強く、集中力が続かない
生徒も多い。NRTの結果を見ると「読むこと」の能力については全国平均を下回っている。

また、この調査によると、多くの生徒が、教師の一斉指導よりも、自分で課題を選び、パソコン
等を使って、調べてまとめる学習を希望している。しかし、調べてまとめる際には、自分の課題に
はどの資料のどの部分が必要なのか分からず、資料を丸写しする生徒も多い。本格的な要約につい
ては、ほとんどの生徒にとって今回が初めての学習となる。

(2) 教材観

本教材は、クジラというだれもがよく知る動物が話題となっている。しかし、テレビや写真でク
ジラの姿を見た事はあっても、クジラたちが体の特徴を生かし、音を巧みに使い、コミュニケーション
を図っていることを知っている生徒は少ない。生徒にとって、新しく知ることも多く、興味深
い内容だと思われる。その新しく知ったクジラの謎について誰かに伝えたいと思う生徒も多いので
はないだろうか。そこで、新しく知ったことを、新聞の形式に要約して伝える言語活動を取り入れ
たい。

新聞に要約する中で、問題提起と答えによって文章を展開させている筆者の工夫に気付くことが
できるだろう。本教材には2つの問いがあることに気付き、それに対する答えがそれぞれの後に続
くという構成に着目すると、「導入・本文・まとめ」という文章の展開が明らかとなる。問題提起
と答えによって構成される説明的文章の典型的な特徴を学び、それを生かし、調べたことを問題提
起と答えの形で新聞にまとめることで、他の文章を読む力を身に付けさせることができるだろう。
それぞれの形式段落は簡潔で、段落相互の関係もとらえやすい。文章の展開に即して内容を理解し、
要約するのに適した文章だと思われる。

(3) 指導観

今回は、目的に応じて的確に読む力を付けるために、読み取った文章を要約して、新聞に再構成
するという言語活動を取り入れる。内容を正しく要約することを意識することにより、教材文に立
ち返る場面が増えると思われる。目的がつかみにくく、練習で終わることの多い要約学習に、新聞
を作るという目的を意識させ、要約文がどのように生かされるか目で見える形にすることで、意欲

的に学習に取り組むことができるのではないかと考える。要約するための条件としては、字数が挙げられる。限りのある新聞のスペースに合わせることで、字数に合わせる必然性が生まれるだろう。新聞記事には、見出し、リード文、キャプション、コラム等、様々な性質の記事がある。それぞれの記事に応じて要約すれば、固定的ではなく、目的に応じた様々な要約の仕方を学ぶことができると思われる。発展として、教材文を読んで更に疑問に思ったことを、ほかの資料を使って調べてまとめさせる。ここでも問いと答えという教材文の特徴を生かしてまとめさせることで、問いと答えに着目する読み方の定着を図りたいと考える。

3 単元の指導目標

- 文章を読んで、自然について興味をもち、疑問を解決したり、知識を広げようとする態度をもたせる。
- 段落の接続関係や、問いと答えを対応させることによって、文章の構成について理解させる。
- 目的に応じて要約させることによって、よりの確に文章を理解させる。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	ア 興味や疑問をもって文章を読み、自分の考えを確かめながら新聞を作ろうとしている。
読む能力	イ 問いと答えを対応させて、文章の構成をつかんでいる。 【C 読むこと ウ】 ウ 目的に応じて要約している。 【C 読むこと イ】
言語についての知識・理解・技能	エ 接続関係に注目して、段落の役割について理解している。 【言語事項(1) エ】

5 単元計画

時	主な学習活動	教師の指導・支援	評価とその方法
1	<p>学習の見通しをもつ。</p> <p>文章の構成をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 班で、段落パズルをして、段落の役割をつかむ。 文章を4つのまとまりに分ける。 <p>まとまりごとに音読し、感想や疑問をもつ。</p>	<p>教師が作成した「クジラ新聞」の例を提示することにより、教材文を新聞にまとめる学習をすることを確認させ、教材文を読む目的意識をもたせる。</p> <p>いくつかの段落毎に分けたカードを準備しておき配布する。接続表現やキーワードに着目して並べながら元の文章の順番を考えさせる。</p> <p>2つの問いとその答えに着目させ、「導入・本文 ・本文 ・まとめ」に分けさせる。</p> <p>小さな疑問点でも書き留めるように、まとまり毎に間をおいて音読させる。</p>	<p>ア 新聞作りに見通しをもっている。 【観察】</p> <p>エ 接続表現に注目してカードを並べかえている。 【ワークシート】</p> <p>イ 2つの問いとその答えを対応させている。 【ワークシート】</p> <p>ア 文章に対して、疑問や感想を書いている。 【ワークシート】</p>
	本文 を要約する。	問いの文である形式段落 を20字	ウ 指示語の内容を踏まえて

2	<ul style="list-style-type: none"> ・小見出しを付ける。 ・キーワードである「クリック」「ホイッスル」についてまとめる。 	<p>以内にまとめることで、小見出しを考えさせる。</p> <p>百科事典の文を提示して、まとめ方の特徴を考えさせる。</p>	<p>小見出しを付けている。</p> <p>【新聞】</p> <p>ウ キーワードについて簡潔にまとめている。</p> <p>【新聞】</p>
3 (本時)	<p>本文 を要約する。</p> <p>・小見出しと本文に分けて要約する。</p> <p>2枚の写真にキャプションを付ける。</p>	<p>問いと答えの対応する構成を確認させることで、形式段落 で、問いの文の要約を小見出し、その答えを記事として要約させる。</p> <p>新聞のキャプション例を参考に、体言止めでまとめさせる。</p>	<p>ウ 段落を20字以内で要約している。</p> <p>【新聞】</p> <p>ウ 段落を70字以内で要約している。</p> <p>【新聞】</p> <p>エ キャプションを付けることで、具体例が書かれた段落の役割に気付いている。</p> <p>【新聞】【発言】</p>
4	全文を要約する。	まとめの部分に注目し、それぞれの具体例を本文中から付け加えながら、全文を要約させる。	ウ 文章の展開をとらえ、全文を200字程度で要約している。
5	文章全体をまとめる大見出しを付ける。	全文要約を振り返らせることで、全体を貫くキーワードが「コミュニケーション」であることに気付かせる。	ウ キーワードを踏まえながら、大見出しとして20字以内にまとめている。
6	クジラについて調べて記事にする。	生徒から出された疑問を基に、資料を準備しておいて提示する。	ウ 目的やスペースに応じて要約している。
	文章に対する自分の考えを書く。	問いと答えの対応という構成の特徴を振り返らせ、それを生かして、問いを見出し、答えを記事としてまとめさせる。	【新聞】
		コラムという形で、文章や調べた内容に対する考えを書かせる。	ア 自分の意見を書いている。
			【新聞】

6 本時の指導

- (1) 目標 問いと答えの構成を踏まえて、要約させる。
具体例が書かれた段落の役割を理解させる。

(2) 展開(3/6時)

過程	学 習 活 動	指 導 と * 評 価
導 入	1 前時の学習を振り返り、本時の学習について見通しをもつ。	<p>本文 で、問いの文を見出しにしたことを想起させる。</p> <p>本文 を新聞にまとめよう 写真にキャプションを付けよう。</p>

<p>展</p> <p>開</p>	<p>2 本文 に小見出しを付ける。</p> <p>3 本文 をまとめる。</p> <p>4 2枚の写真のキャプションを付ける。</p>	<p>問いの文に注目させ、20字以内の小見出しにするために、どこを削ればよいか考えさせる。</p> <p>いくつかの疑問文を例示し、この文は何を問いたいのか考えさせることで、キーワード「なぜ」を見付けさせる。</p> <p>答えの部分に「音」が多用されていることに気付かせ、キーワード「音」を見付けさせる。</p> <p>* 「なぜ」「音」のキーワードを使った小見出しを付けているか。【新聞】【観察】</p> <p>「なぜ」に対する理由をまとめることを確認させ、段落の3行目は理由が書かれていないことに気付かせる。</p> <p>段落と 段落のそれぞれを1文でまとめさせ、つなげるためには逆接の接続詞「しかし」が必要なことに気付かせる。</p> <p>班で新聞の記事を読み合わせることで、まとめ方を確認させる。</p> <p>* クジラが音を使う理由として を要約しているか。【新聞】【観察】</p> <p>新聞例を提示し、キャプションの多くは、体言止めになっていることに気付かせる。</p> <p>コククジラとザトウクジラの説明はどの段落に書かれているか確認させ、2種類のクジラは何を説明するために、用いられているか理解させる。</p> <p>* 具体例が書かれた段落の役割を理解してキャプションを付けているか。【新聞】【観察】</p>
<p>終末</p>	<p>5 次時の学習内容を知る。</p>	<p>新聞の作成状況と学習計画を振り返らせることで、次時は文章全体をまとめるリード文を書くことを確認させる。</p>